



山田川(町田町)

水の思い出 ⑥1

小・中学校へ通うときにいつも渡っていた、山田川に架かる橋があった。アーチ型の、威風堂々とした木造の橋だったが、自分が中学2年の時、台風による増水で流されてしまった。

その橋の廃材を使って、誰かがイカダを造ったらしいというので、妹と近所の友だちを誘って3人で見に行くと、イカダは川岸の杭にロープで繋がれていた。そばには竹の竿もある。見ているうちに、どうしても漕ぎたくなって、あたりに人気がないのを確認すると、3人で乗り込んで川下へ漕ぎだした。

イカダが繋がっていたところは、水府育苗センターわきのあたり、漕ぎだして程なくすると、川はゆるやかに左にカーブする。そこから川幅は20mほどに広がり、目の前の景色が大きく開ける。

そこは、岸から眺めた景色とはまるで違う未知の世界だった。大海原へ漕ぎだしたような爽快さに、全身が喜びに沸き立った。

以後、病みつきになり、あたりに人気がないのを確かめてはイカダを拝借し、3人で川下りを満喫した。それにしても、誰が造ったイカダだったのか？40年あまり経った今でも謎だ。(下宮河内町 Y・M)

加藤寛齋をご存知ですか？

あれは、2011年の暮れか2012年の1月だったでしょうか？フォンスの編集会議で、いつものように特集記事を決めている時でした。編集委員の誰かが「加藤寛齋について取り上げてはどうですか？」と発言しました。(カトウカンサイ？誰だろう、聞いたことがないなあ…)「常陸国北郡里程間数之記はとても興味深い絵地図だと思えます。」(えっ！なにに、ヒタチノクニホクグンリテイケン……?) 初めて聞く人物ですが、実は結構有名な人物です。説明を聞いているうちに、これは面白そうだなと思い担当者になり、勉強しながらの取材を行いました。当時の農村の様子が解る貴重な書物「常陸国北郡里程間数之記」と数々の貴重な著作を残した水戸藩下級武士「加藤寛齋」を紹介します。

現在、「常陸国北郡里程間数之記」の原本は国立国会図書館に保管されておりますが、インターネットで見ることが可能です。(鴨志田 弘子、高橋 靖浩、原田 静雄、五十嵐 弘)

かとう かんさい 加藤寛齋 (1782年～1866年)

加藤寛齋は水戸藩の下級武士でした。名家に生まれたわけでもなく、藩の要職に就いていたわけでもないので、寛齋について記述された当時の記録はほとんどありません。水戸藩の行政区の一つ北郡奉行所に50年以上勤め、家禄は八石二人扶持だったといわれています。北郡とは年代によっては太田郡などと呼ばれ、旧常陸太田市域を中心に旧金砂郷町、旧水府村、常陸大宮市、大子町、那珂市などに及ぶ地域です。時代小説をよく読む方や、当時の事に詳しい方ならおわかりと思いますが、「八石二人扶持」はかなり低い身分でした。しかしながら、寛齋は北郡内を隅々まで熱心に見てまわり、農村の振興につくしたことが、残された著作の数々からわかるといわれています。植林が、後世藩に多くの利益をもたらす事を訴え、適地を求めて管内を巡ったこと、辰ノ口堰の維持に努めたこと、主穀以外の野菜類の作り方、施肥の方法などを詳しく調べそれを奨励したことなど、北郡内の農村が豊かになるよう熱心に働いていたといわれています。寛齋が残した著作の中でも有名なものが「常陸国北郡里程間数之記」と「加藤寛齋随筆」です。

寛齋が生きた時代は尊皇攘夷を叫ぶ志士たちが闊歩し、水戸藩内でも党派の対立抗争が激化した政争・党争の時代でした。そんな中、寛齋は一貫して農政の現場で農村振興に努め、一方私生活では妻の千尋と俳句を詠んだりしながら、楽しんでいたようです。寛齋はこの時代には珍しく妻の俳句の才能を素直に認めていたといわれています。

水戸藩の内外で、大きく政治が揺れ動いていた時代、そんな時代に目の前のやるべき事を黙々とこなし、求められる職務以上の調査・探求を行った寛齋に魅力を感じます。

《事績》

- 植林の奨励
- 辰ノ口堰用水の維持管理
- 特産物の栽培奨励 (甘藷、みかん、柿、紅花、檀、楮、漆、煙草 etc)
「柑樹成養録」「乾柿調成弁指南総論」「煙草乾燥法」
- 著作
「水戸封内図」「寛齋調法雑記」「辰ノ口分江全図」「寛齋慢筆録」「菜園温故録」
「寛齋随筆」「常陸国北郡里程間数之記」

ひたちのくにほくぐんりていけんすうのき 常陸国北郡里程間数之記

文化年間に役所勤めを始めてから50有余年の間に郡内各地を歩いて見聞きしたことがらをまとめたもので、1～3巻は郡内の道路沿いにその土地の状況を記しています。4巻は領内各地の旧家、文書、風俗、習慣について記録されています。その中でもかなりの頁を割いて書いている西金砂神社の祭礼に関しては「西金砂の祭礼と田楽」という冊子に収録されています。



おしんざん
御真山金砂本宮～高橋ノ湯

たつのくちぶんこうぜんず 辰ノ口分江全図



辰ノ口堰用水路の絵図で、空白の部分には絵図の見方・活用上の注意書きがそえられています。

嘉永6年上岩瀬村(常陸大宮市)の黒沢弥一衛門(水玉軒)に用水の絵図を浄書(きれいに書き写す)させ、辰ノ口堰元会所へ保管すると共に水積役を世襲した富岡村(常陸大宮市)と葉谷村の両永田家へも一部ずつ与え、辰ノ口堰用水の管理と予測される用水をめぐる争いに対処しようとした。

①、②は国立国会図書館蔵。

③、④は永田正男氏蔵。写真は常陸大宮市歴史民俗資料館提供

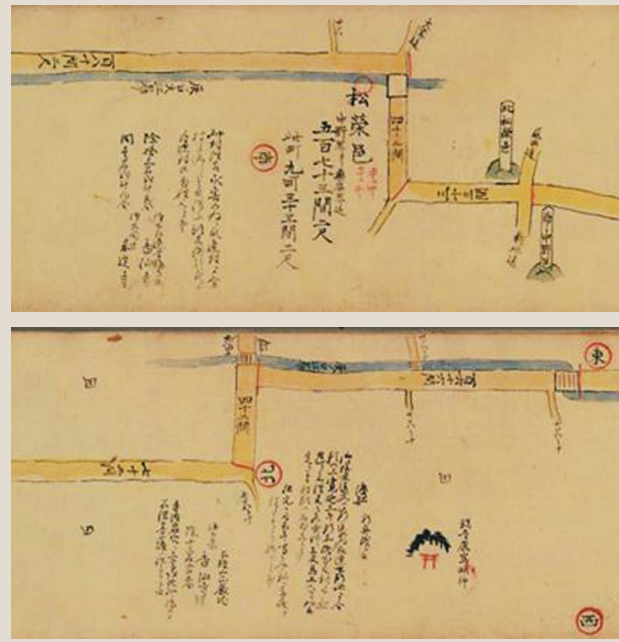
加藤寛齋著

「常陸国北郡里程間数之記」尋ね歩き

Part
1
金砂郷編

1 久慈川の渡船場

一寛延3年(1750)、松栄村の人々が瓜連村(那珂市)の人々と相談し、年貢米や薪・炭の輸送の便を考え、藩庁に船渡しの設立を願い出て認められた。そのため土地の人々は「新船渡し」と呼んだ。松栄村で船を建造し渡し料として歩行者銭3文、馬5文であった—



江戸幕府は全国統治の政策として、大きな河川には橋を架けずに渡し船や人力で川渡しを行った。久慈川沿岸では(下河合—額田)・(下川島—鹿島(瓜連))・(松栄—瓜連)・(新地—上岩瀬)・(不動下—宇留野坪)の両村間にそれぞれに渡船場があった。

2 鏡徳寺で鍛刀した大村加ト



一上利貞村の鏡徳寺では元禄年中、光圀の命により大村加トという刀工が住みこみ、山中で刀剣の製造にあたった。—

大村加トは駿府(現在の静岡県)の生まれで大森治部左衛門と称し、後に仏門に帰依し入道名を加ト安秀といった。もともとは越後高田藩に仕えた外科医で、刀剣製作は趣味であったといわれている。どのような縁があったかは解らないが、7~8度水戸藩駒込別邸で自作刀で牛を切断・解体して食用として光圀公へ献上した。その後、加トの刀は評判を呼んだが、職業としての刀工を選ぶことはなく、作った刀の対価を求めることはなかったという。天和元年6月、高田藩が跡継ぎ争いで五代将軍綱吉に罰せられたことで、加トも職を失った。その後、光圀公が加トに鍛刀を命じ、加トは弟子とともに鏡徳寺で刀剣の製造を行った。

(鏡徳寺石碑抜粋)



3頁の①②及び、この頁で使用している写真は、国立国会図書館の許可を得て、デジタル化資料より転載しました。

3 玉造村のミイラ

一芦間村の七郎衛門という者が寛政4年(1792)4月、60歳をこえた年齢で死亡した。そこで玉造村の弥勒院境内に埋葬された。ところで甥の武七なる者が文政10年(1827)に死亡したので、埋葬しようと墓地を掘ったところ、かつて35年前に埋葬した七郎衛門の屍が、老杉の根本のところから出てきた。皮膚の色は生前と全く変わらず、毛・骨・皮なども腐らずに、ただ焦燥した様子で出土したのである。人々は驚いてその遺体を武七の家を持っていき、線香や花を供えてその霊を弔った。遺体の軽さはまるでヒョウタンのもようであった。—



寛齋はたまたま玉造村に来て、このミイラを見て「常陸国北郡里程間数之記」の中に、そのスケッチを描いていた。日本の風土的な特質、湿気の多いことから確認されたミイラは多くない。弥勒院はその後廃寺された。後に尋常小学校が建設され、現在の常陸太田市玉造霊園が有るところに在ったと言われている。

4 久米村の松茸

一久米の愛宕社はかなり広範囲にわたって知られており、水戸の城下にもお札を配っていた。また玉造村はもと久米村の一部であり、上久米村が分かれて玉造村になった。久米地区の物産では、大里村に次ぐものとして松茸があげられている。しかも久米の松茸は香が強く、質の良い物である。—



地元の年配の方にお話を伺うと、久米から西山に続く山には赤松が多く、現在のこめ工房のあたりでも松茸がたくさん採れたそうです。現在は残念ながら……

5 辰ノ口堰元会所跡~辰ノ口堰の加藤桜

—この地に(私は)毎年春になると江堰工事が始まるので出張して来ている。ひまを見ては山桜を根掘りしてここに移植した。それを20余年も続けたので、植栽した山桜は200本を超えた。後輩のうつを散せん(解放する)のために計画し世話をした。里人の中では加藤桜と呼んでいるとの話もきいている—



大里陣屋の下役人として支配下の村々を担当していた寛齋は、文政3年(1820)の春、辰ノ口堰元詰め役となり、天保10年(1840)までの20年間、さらに弘化2年(1845)に再任され万延元年(1860)に退役するまでの16年間、辰ノ口堰用水の維持・管理・保全に心血を注いだ。



昭和初め頃まで辰ノ口堰元会所から小倉あたりまでの水路沿いに山桜並木があった。最後まで残っていた会所前の加藤桜も昭和30年代前後に姿を消してしまった。現在はソメイヨシノが植えられている。

参考文献：金砂郷村村史編さん委員会発行 金砂郷村史だより



学び舎の思い出

上大門小学校



大門地区のちょうど中間地点に、上大門小学校はあった。山間の、窪地に建っているため、冬の寒さはきびしかった。暖房は、炭をくべた火鉢であり、足元から寒さで凍えた記憶がある。後に石炭ストーブに変わった時には、その暖かさには驚いたものだ。

周囲を山に囲まれており、遊び場には事欠かなかった。先生方もそれを知って、ストーブ用の焚き木を山から拾ってくることを、野外授業に取り入れるほどだった。春先の天気の良い日には、弁当を持って山に登り、小枝を箸代わりにして、食べた弁当のおいしかったことが今でも記憶に残っている。

上大門小学校は、大門地区のランドマーク的存在であり、校庭で、夏の夜には、映画の上映会があると、多くの人で賑わったものだった。

校庭には、おす、めす、一対の大きな銀杏の木があり、毎年たくさんの銀杏を実らせていた。そのイチョウは、今パーティホールの東側に移植され、余生を送っている。

(黒羽 文男)



生涯学習情報誌「フォズ」は、2~3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌

平成24年12月から平成25年4月までに発行予定の
生涯学習情報誌「フォズ」第63号から第65号

◆広告料(1回あたり)※会長が指定するページの最下段

- ① 縦4.5cm×横 8.8cm/10,000円
- ② 縦4.5cm×横17.9cm/20,000円

問合せ

フォズ・ネットワーク事務局
(生涯学習センター内)

TEL:0294-72-8888

URL:edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu

百姓母ちゃん農日記 ⑦ もんぺ使い

『真夏の秋冬コレクション!』

ファッション界では、暑い夏に真冬のファッションショーをしたり、冬服の撮影をしたりするようですが、うちの父ちゃんも毎日それと同じようなことをしています。

夏の野菜の最盛期、暑さで畑に行くのも大変な8月～9月に、もう頭の中は真冬に採る大根白菜キャベツのことでいっぱいです。

「もっと夏野菜の手入れをせい!」という、父ちゃんに「この1か月の間に、何を蒔き、どのくらい植えたかで、来年の春先までの収穫が決まるんだぞ。」と反論されます。

キャベツを蒔くのが3日遅れると、それは収穫時期を1週間以上遅らせることになり、下手をすれば気温の低下でものになりません。まだ暑いからと悠長にしているのは、確かに対応できないのです。ごもっとも!

それにしても、畑は暑く、カラカラ天気、まさに虫には天国のような環境に、柔らかくおいしいキャベツの苗を植えるのは、ライオンに餌をあげるようなものです。

植え付け時は嚴重に防虫ネットをかぶせ、さらに活着するまで日よけの遮光ネットをかけ、大事に育てあげます。それでも虫は容赦なく土の中から出てきたり、草も生えてきたりします。だから植え付け前の2か月間くらい、あらかじめマルチで土全面を覆い、太陽熱で土を高温にして、虫や草の種を殺すことをしています。植え付け時にはマルチをはいで、そのまま植えれば、土表面から草や虫はでてきません。

そのような2重3重の防備をして植えるキャベツやブロッコリーの苗たちは、なかなか降らない雨を待ちながら里山の朝晩の温度差が与える夜露や湿気で、少しずつ成長してゆきます。やっとできたキャベツやブロッコリーは1個1000円以上の価値があってもいいと思うのが農家の本音です。

(布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス ⑥1

夏休み、スミレが寮から帰ってきました。

若い娘らしく短いスカートから長い脚をスルリと伸ばし、それで電車に乗ってきたのかと心配になるのは親バカでしょうか。

スミレは身長が170cmちかくあり、背の高さの割に体重が少ないと感じています。実際に聞いてみると分類上「やせ」の枠に入っているのもう少しお肉がついてもいいと思うのですが、ひとたびスミレに意見すると10倍くらいの言葉で反論してきます。しかも「もっとやせたい。」のだそうです。

私の娘時代でもやはり同じ事を考えていたと思いますが、一通り経験してきたのでここは親として、女の先輩として言わなければ。いつかはスミレもお母さんになりたいと思う日が来るでしょうから、その時のために健康的であることの大切さを説かなければ。しかし、綺麗になりたいと願う年頃の娘にはなかなか聞き入れてもらえないのが現状です。

私はスミレが赤ん坊の時、体重が増えないことで一時大変悩みました。元気に成長した今では取り越し苦労でしたが、それでも当時はものすごく悩みました。育児書の言葉に涙が出る日もあったのに、なぜ今娘はやせることにご執心なのか。私の涙はなんだっただの!

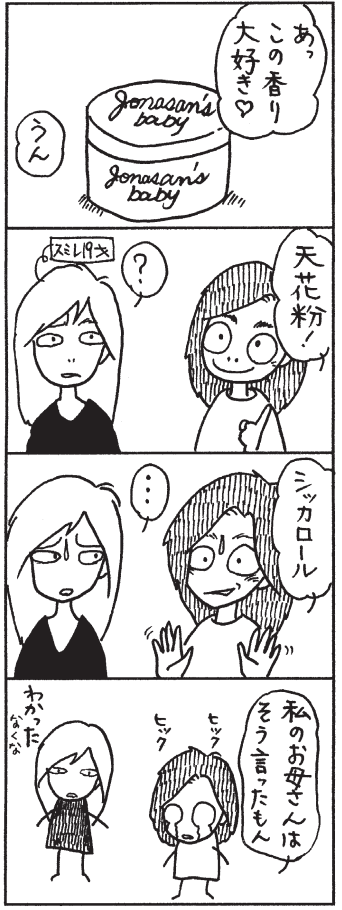
太りすぎはよくない、年頃の子には太り気味も嫌なのはよく分かる。でも、一人暮らしの娘が帰るたびに体重が何キロ減ったか自慢されると私は胸が痛む。そうね、あの頃泣きながら育てたときと同じ気持ち。ただただ、健康でいてほしいということなのです。

だんだん手の届かないところで自分の意志で生きていく子どもに、どんな親でもみんな、その子の健康を願っています。元気が一番。

夏休みが終わり、また寮に戻っていったスミレをいつも思っています。元気でいてねと思っています。ユースケやユキノに「行ってらっしゃい。無事に帰ってきてね。」と祈るように、元気でいてねと思っています。

— わいわいネット 織田 裕子 —

ベビーパウダーって言うんですよ!



リレー
エッセイ 「思い出の絵本」

『ぼくはおにいちゃん』

～61～

(高柿町 綿引 紗織)

「お母さんは赤ちゃんばかり可愛がってさ。赤ちゃんなんかいなければいいんだ…」
なんて耳の痛い言葉。でも、弟や妹がいる人なら誰でも一度は思った事があるのではないのでしょうか？
物語は、ノンタという子猫の家に赤ちゃんが生まれる所から始まります。お母さんが今までのように遊んでくれない寂しさから、ノンタは散歩先で赤ちゃん達に様々な意地悪をするのですが、結局かわいそうで助けてしまいがち立派なお兄ちゃんに成長するというお話です。

初めて長女に読んであげた時、まだ3歳になっていませんでしたが、ノンタが赤ちゃん達を置いて走り去る所で涙がポロリとこぼれたのをよく覚えています。次女が生まれて間もない頃で、理解していたのか分かりませんが、「お姉ちゃん」を頑張っていたのでしょうかね。

もうボロボロの絵本ですが、挿絵がとっても可愛くて、最後に夕暮れの中、みんな笑顔でお母さんに「ただいま」を言うシーンが印象的です。

何かと我慢させる事の多い我が家の小さなお姉ちゃん。読み終わると、ぎゅっと抱きしめたくなくなってしまいます。皆さんも絵本を読んで、お子さんをぎゅっと抱き締めてみませんか？
(次回は中利員町 川又 三美さん)



ほつ
とひといき アカマダラコガネ



クヌギの樹液などに来るコガネムシの仲間では、大珍品にあたる種です。その理由は、幼虫がオオタカなどの猛禽類の巣に住み着くと考えられているからです。この虫が生息するには、オオタカが住んでいるような豊かな里山が必要となるわけですし、森の豊かさを計る指標になるかもしれません。

常陸太田市では8年前に増井町で記録されているだけですが、今年、水戸市や那珂市で記録が相次いでいます。カブトムシ探しに行ったときに気をつけて見て下さい、常陸太田市の森にもまだ生き残っていることを確認したいです。

(佐々木 泰弘)

ちよつとひといき げんらく 「うどんの源楽」



お買い物の帰りなどにサッと食べられる、早い、安い、うまい、うどん屋さんです。

注文し、カウンターで受け取ったら、天ぷらなどを、お好みで乗せていきます。たぬき(揚げ玉)が無料なのが、思いのほか嬉しか

ったりします。

麺はプルルンとしたコシに、ツルツルの食感とのどごし、材料や打ち方、茹で方にとっても気を使っているのがわかります。

ツユは見た目、関西風の薄味なのかと思いきや、ダシの旨みが濃い、力強い味です。毎朝打って、一番美味しい時間帯に売り切るスタイルで、材料はなるべく常陸太田産を使い、アルバイトも市内の学生、目指しているのは“地元の味”だそうです。

冬場だけでなく、夏の暑い日にも、“ざるうどん”や濃口のツユがかかった“ぶっかけうどん”などがおすすめです。(武藤 邦宏)

●常陸太田市増町2929-1 TEL 0294-33-7466

●営業時間 AM11:00～PM2:00

●定休日 毎週水曜日

●かけうどん(並盛) 320円 ぶっかけうどん(並盛) 340円

常陸太田の地名話 ～9～

せ や 世 矢 【常陸太田市世矢地区】

龜作、真弓、大森、小目の4か村が合併して世矢村が成立する。役場は小目に設置。村名は、古代の「世矢郷」に由来するといわれる。昭和30年常陸太田市に編入し、現在に至る。

「せや」の地名は、一説に狭谷(せや)で狭い川瀬の小谷がある土地に由来するといわれている。世矢の地が山が多い土地であることを考えれば、狭谷の意味することも理にかなっているといえよう。(川松 博)

<参考文献>「新編常陸国誌」「茨城県地名大辞典」「常陸太田市史 通史編」

地名に八幡太郎義家伝説が残る世矢は、その昔(平安期)、常陸国久慈郡二十郷の一つ「世矢郷」であった。平安末期から世谷になり、江戸期には瀬谷村と地名を改めてきた。明治22年の町村制施行により、



信仰と大理石の真弓山